

## 第2期広島市立大学塾活動報告【12月12日】

国際学部国際学科1年

丸井 皐

今回の市大塾は、5週にわたって行われてきたゲスト会と宿泊研修で鑑賞した『初恋のきた道』に関して、塾生それぞれの意見交換をすることを狙いとして進められた。あらゆるリーダー像を示してくださった5名のゲスト講師の方々のお話を聞き、塾生ひとりひとりがリーダーシップについて熟考することができたのだろう。ディスカッションは白熱を極めた。塾生はそれぞれの印象に残ったゲストの発言やそれについての考えを発表し、議論が新たな議論を呼んで、当初の予定を大幅に変更することとなった。しかし、時間制限を設けることなく進められる議論は、私たち塾生にとって有意義なものであることを再認識することができた。

今回の市大塾の中で、「想像力」と「認知的分業」という2つの言葉が塾長と副塾長の口から発せられた。私たちは日本という比較的平和な環境に生まれ、健康な身体と精神を与えられて生きてきたが、その便利さゆえに自らが恵まれた環境にいることを忘れがちである。「想像力」を働かせ、相手の立場になってみる。その重要性を私たちは改めて理解し、意識しておかなければならないと思った。また、「考えること」と「知っていること」は別であり、私たちは物事を「知っている」だけで終わらせてはいけない。現実で起きている社会の問題や状況について「考える」役目を背負っている。社会に対して広く、深く関心する目を持つことの重要性も理解することができた。今の環境に甘んじることなく、この恵まれた環境をどう活かしていくのか。大学生として、塾生として自らの在り方を考えさせられる良い機会となった。